

# 大田区臨海部における 次世代エネルギーインフラの整備

大田区  
令和5年2月17日



# 空港臨海部グランドビジョン2040（令和4年3月策定）

空港臨海部が2040年に向けて目指すべき地域の姿を示す。

## 【将来像】

多様な人々が交流・挑戦する“未来型創造都市”

～世界へはばたく空港臨海部～

## 【将来像実現に向けた基本方針】

- ① 高度な産業の集積拠点
- ② 人の活動と自然の調和
- ③ 次世代のインフラ整備



# 基本方針②「人の活動と自然の調和」

基本方針②「人の活動と自然の調和」

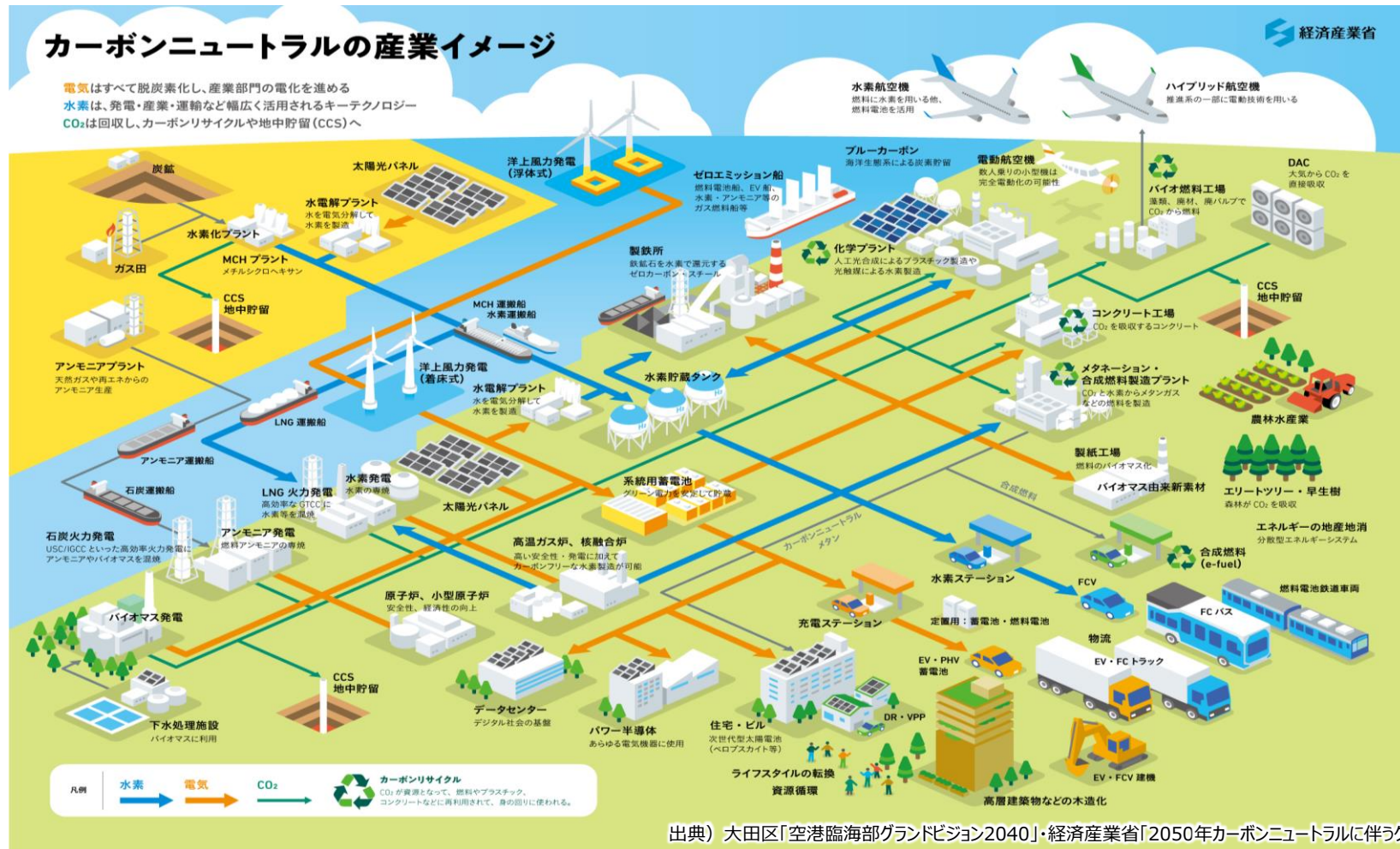
I 脱炭素化

II エネルギーインフラ

III 循環型社会

## I 脱炭素化の推進

- 空港臨海部の施設、低未利用地などに再生可能エネルギーの導入。
- 工場のスマート化など既存技術を活かして地域における**水素を含むエネルギー利用の効率化**を図る。

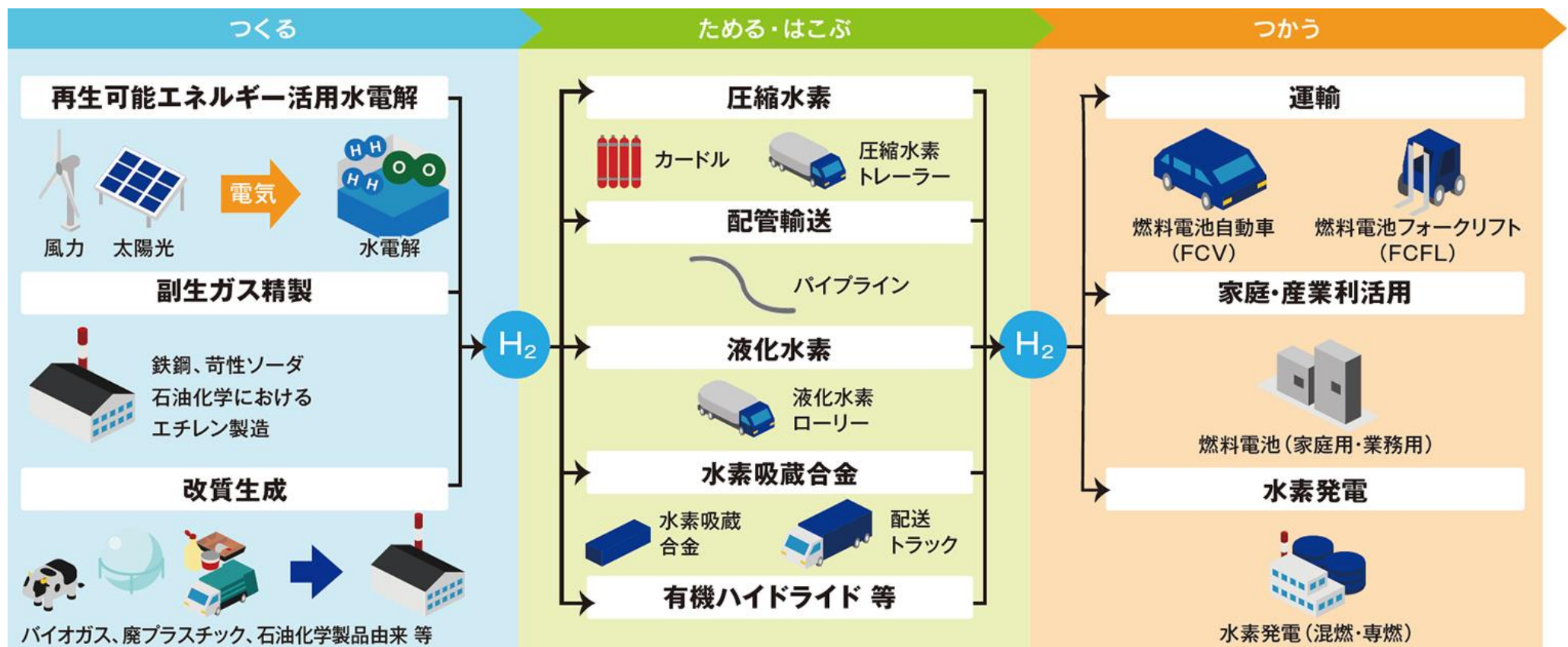


# 基本方針②「人の活動と自然の調和」

## II 水素などの次世代エネルギーインフラの整備支援

- 環境に配慮した公共交通機関に対応する水素などの次世代エネルギー供給ステーションの整備など、新たなエネルギーインフラの整備及び構築支援を行う。

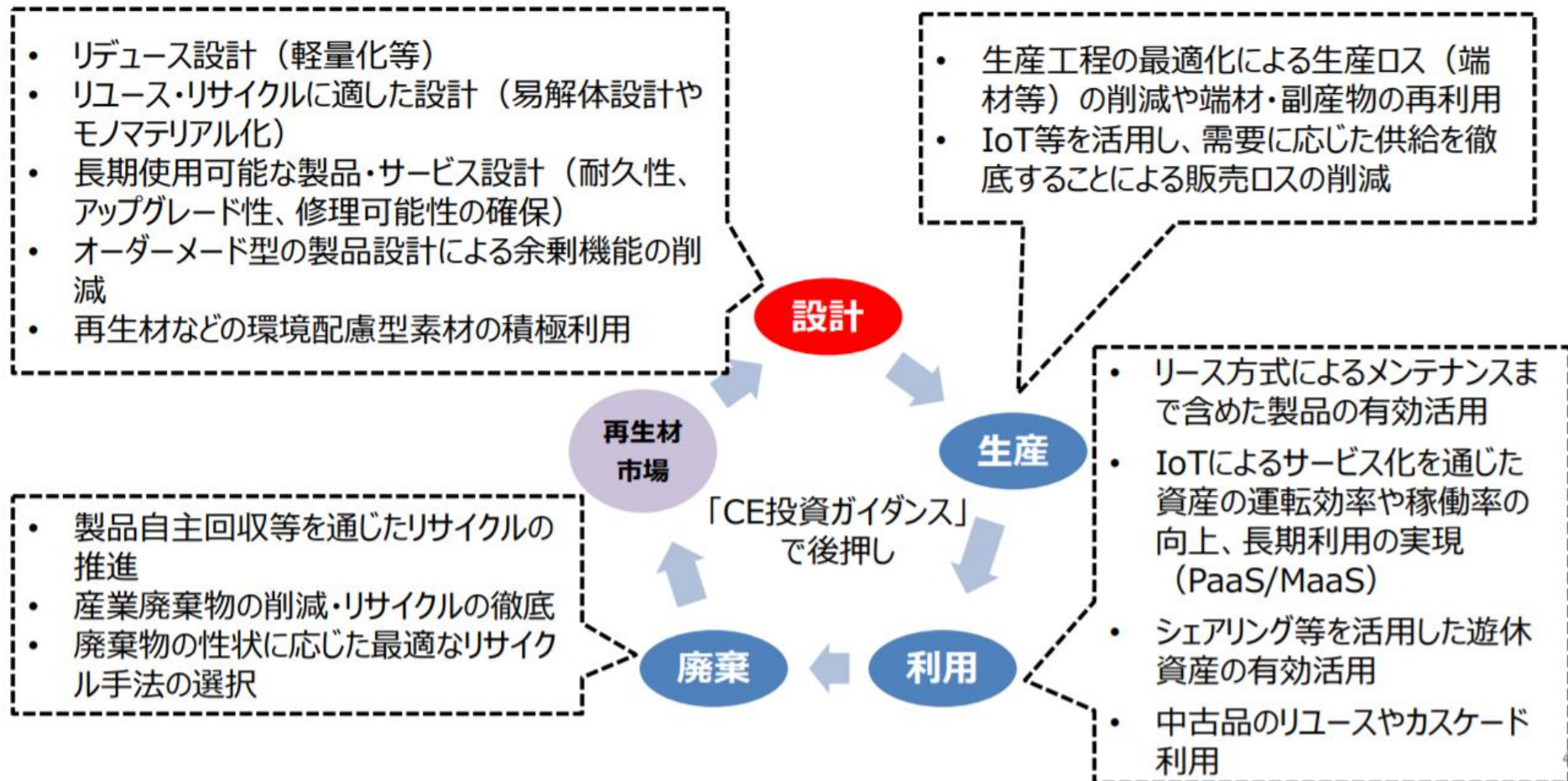
### 脱炭素化に向けた水素サプライチェーン ※イメージ



## III 循環型社会の実現に資する技術開発支援

- 民間事業者などが既存技術を活かし、空港臨海部において循環型社会の実現に資する技術開発を行うことに対し、支援を行う。

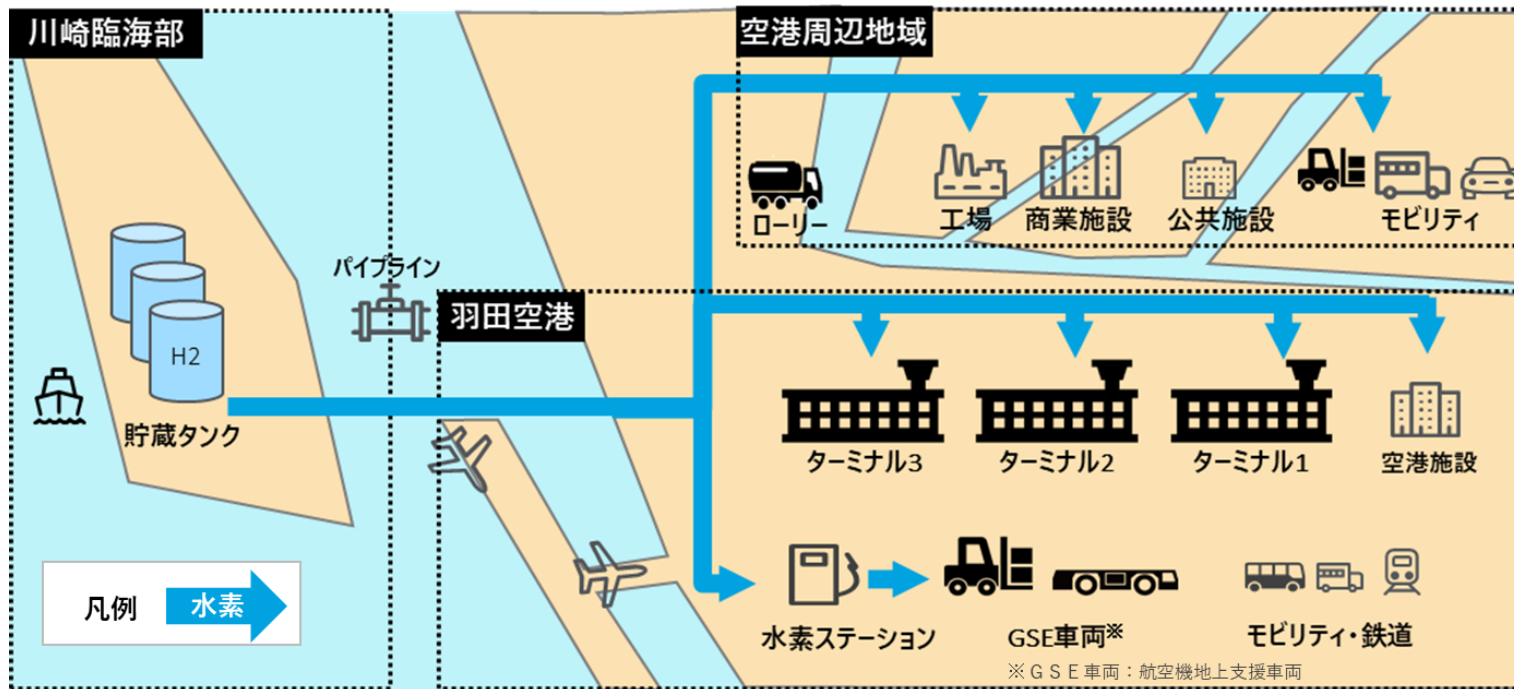
### 循環性の高いビジネスモデルの例



# NEDO事業によるCO<sub>2</sub>フリー水素利活用モデル調査

- 川崎臨海部の基地に輸入するCO<sub>2</sub>フリー水素を羽田空港及びその周辺地域に供給することを想定し、当該地域での水素エネルギーの潜在的な需要を調査
- 実現に必要な供給方法や設備の導入方針を整理し、経済性や温室効果ガス削減効果を検証

## <羽田空港及び周辺地域におけるCO<sub>2</sub>フリー水素利活用モデルのイメージ>



## <実施体制>

日本空港ビルディング株式会社  
(代表事業者/幹事企業)

空港施設株式会社  
(副幹事企業)

E N E O S 株式会社

川崎市

**大田区**

デロイト トーマツ  
コンサルティング合同会社

# NEDO事業によるCO<sub>2</sub>フリー水素利活用モデル調査

## 大田区が調査を担う主なエリア

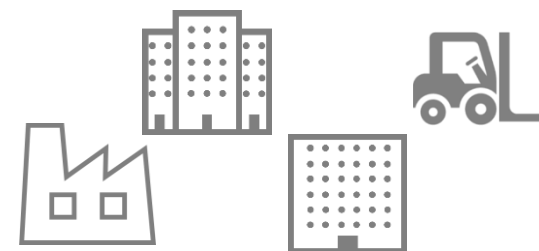
- 空港隣接地域（HICity等）
- 空港周辺（羽田旭町周辺）
- 3島（昭和島・京浜島・城南島）



## 調査の概要

1

水素需要・温室効果ガス削減等のポテンシャル把握



商業施設、公共施設、工場、倉庫、モビリティ等

2

各企業の水素利活用に関する意向・個別課題等の把握



用途、経済性、規制等

大田区臨海部における次世代エネルギーインフラの整備につなげる